

令和6年度第2回佐賀県建設工事入札審査会 会議結果

開催日時	令和6年10月18日(金)10時00分から11時30分まで										
開催場所	ホテルグランデはがくれ 2階フラワーホール (佐賀市天神2丁目1番36号)										
出席者	(委員) 深川委員、赤星委員、帯屋委員、東島委員、倉富委員 (事務局) 建設・技術課長 他6名 (審査対象機関) 佐賀中部農林事務所 東部土木事務所 唐津土木事務所 杵藤土木事務所 河川砂防課 教育総務課 警察本部会計課 入札・検査センター										
会議の公開 ・非公開	公開(ただし、自己採点型以外の総合評価落札方式による入札案件の個別評価点に係る審査については、非公開)										
非公開理由	自己採点型以外の総合評価落札方式による入札を行った案件の個別評価点(評価の内訳)については、個別企業の技術者に係る個人情報や企業独自の技術的情報が含まれるため。										
会議概要	<p>審査対象期間(令和6年4月1日～令和6年7月31日)に契約した3,500万円以上の工事206件の中から、委員が抽出した10件の工事について審査</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2">抽出案件</td> <td>10件(2件)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">内 訳</td> <td>一般競争入札</td> <td>0件(-)</td> </tr> <tr> <td>条件付一般競争入札</td> <td>10件(2件)</td> </tr> <tr> <td>随意契約</td> <td>0件(-)</td> </tr> </table> <p>※()は、自己採点型以外の総合評価落札方式の件数</p>	抽出案件		10件(2件)	内 訳	一般競争入札	0件(-)	条件付一般競争入札	10件(2件)	随意契約	0件(-)
抽出案件		10件(2件)									
内 訳	一般競争入札	0件(-)									
	条件付一般競争入札	10件(2件)									
	随意契約	0件(-)									

審議概要(案)

委員	県(○発注者、◆事務局)
<p>開会</p> <p>・ 総合評価落札方式(自己採点型以外)による条件付一般競争入札の2案件の個別評価点(評価点の内訳)に係る審議等については、非公開とする。</p>	
<p>1 報告事項</p> <p>① 契約状況</p> <p>② 指名停止等の運用状況</p>	<p>◆配布資料により説明</p>
<p>2 審議事項</p> <p>資料番号 7 <佐賀中部農林事務所></p> <p>クリ防災第 5319018-001 号</p> <p>東与賀地区 県営クリーク防災機能保全対策事業工事(用排水路工)(令和5年度国補正)</p>	
<p>◎応募者数が多く競争原理が働いているにも関わらず落札率が 100%。また、今回は同様の工事に 100%が多いが、その理由は何か。(7)</p> <p>◎応札額が 100%の案件が非常に多く競争原理が働かなくなる。昨今のインフレは長期化が予想されるが、予定価格の算定を見直すことはないのか。インフレも含め、どこに基準を置いて予定価格を組んでいるのか疑問。</p> <p>◎当審査会としては競争原理を働かせたいという思いがあり、今後どうすべきか考える時期が来ていると思っている。</p>	<p>○下請確保や収益性等の経営判断から応札額が高止まりし、発注見直しからも 100%で応札しても受注できるとの判断があったこと等が原因と考えられる。(7)</p> <p>◆予定価格には発注時点の労務費や資材単価を反映する。資材単価は毎月調査し、見直しを行っている。インフレ等の要因で労務費や資材単価が上がった場合は、受注時点での単価で見直し変更が可能か検討することもある。</p>
<p>資料番号 89 <東部土木事務所></p> <p>05年災第 0500157-001 号 三瀬神埼線河川等災害復旧工事(擁壁工)(令和5年度災害)</p> <p>資料番号 92 <東部土木事務所></p> <p>道橋補助第 0112264-002 号国道264号(豆津橋工区)道路橋りょう補助工事(橋梁補修工)</p>	
<p>◎入札参加者数が1者で、落札率も高い。例えば、同時期の90の工事は、十分な競争が働いているが、89は競争が働いていない。</p> <p>競争が働かない背景として何が考えら</p>	<p>○当工事は豪雨によって被災した県道及び兼用する河川護岸の復旧工事を行うものである。なお、この被災によって道路は現在も片側交互通行となっており、河川内には巨大な転石も多い。</p> <p>○道路からの復旧工事が出来ないことから、河川内に大掛かりな工事用道路を築造し、施工する必要がある。また、河川内での</p>

<p>れるか。また、その対策として何が考えられるか。(89)</p> <p>◎災害復旧の工事は今後も増え続けると思われるが、応札者がいないということも今後考えられる。その場合の対策について検討していることがあるか。</p> <p>◎実際不落は出ているか。昨年の水害でかなり多くの災害復旧工事が発生したと思う。</p> <p>◎難工事とか災害工事を受注した場合には工事成績評価点は加算がありますか。当方の事業所では該当する工事については加算することを聞いたことがあるが、県の方ではどうか。(89)</p>	<p>工事であることから、出水期は施工が出来ない。</p> <p>○現場状況が特に厳しく、工事の難易度も極めて高いため、入札参加者は1者に留まり、落札率も高くなったものと推察される。</p> <p>○業者の人手不足もあって、施工条件が特に厳しい災害復旧工事は敬遠されがちであり、業界の構造的な問題であるが、業者が計画的に受注できるよう早い段階で工事の発注見通し等を周知する等の対策が考えられる。(89)</p> <p>○今回の工事は一社から応札があったが、災害復旧工事という性格上、急いでの復旧が必要であり、契約できない事態は我々も避けなければいけないと考えている。そのために業者が対応しやすいように、工事予定や発注の時期等の情報を早めに発信し、発注者側としても業者の情報収集は重要。また、災害箇所をまとめて等級を変更することを考えている。</p> <p><◆補足>災害箇所数が多い場合は技術担当者も少ないため、技術者不足により応札できないということがある。県としては技術者の兼任要件を緩和して技術者が持てる現場数を増やす取り組みを実施している。</p> <p>◆不落はある。一回目に不調が出た場合は、次回はエリアを広げるとか等級を上位まで参加できるようにするなど対応している。また、余裕期間を長くすることや発注時期も集中しないよう状況をみながら発注を行っている。</p> <p>◆災害復旧工事について受注した場合、工事成績の加点を行っている。(89)</p>
<p>◎入札参加者数(10者)が多く、また落札率も比較的低い(92%)、競争が働いたように見える。何が要因となったか知りたい。(92)</p> <p>◎橋りょうの補修工事の件数は今後も増加が見込まれ、人手不足、材料不足も懸念されるが、本件には多くの入札があり人気工事。「特別簡易型(施工体制確認あり)」の内容も含め確認したい。(92)</p>	<p>○橋梁補修工事の施工実績があるA・B級業者を対象としており、参加するハードルとしては低く橋梁補修工事の受注実績がある多くの業者が参加している。</p> <p>○補修対象となる橋梁の規模としては大きいものの、補修工法はひび割れ補修、断面修復といった基本的な工法であり、技術的難易度は高くない。また、足場施工時は交通規制等が必要なく、予定通りの工事進捗が見込める。</p> <p>○予定通りの工事進捗が見込めることと、入札参加者も多いことから最低制限価格で入札されている状況である。</p> <p>○工事の難易度も低く、施工方法や作業環境においても特段考慮する要素もいため、技術提案を求めない「特別簡易型(施工体制確認あり)」を選定している。(92)</p>

資料番号 140 <唐津土木事務所>

05年災第 0500196-001 号 小川河川等災害復旧工事(護岸工)(令和5年度災害)

資料番号 145 <唐津土木事務所>

災関砂防第 0823001-003 号 今坂川第三災害関連緊急砂防工事(本堰堤工)(令和5年度災害)

<p>◎災害復旧工事が非常に多く発注されており、ほぼすべて 99%以上の高落札率となっているため状況を確認したい。(140)</p> <p>◎最近は落札額が 100%か最低制限価格の 92%かの二極化の傾向が見える。92%になる人気工事の場合は総合評価で実績がある業者が受注し、新しい会社の参入がないことを心配している。価格競争と総合評価の競争のバランスが上手くいくような工夫を考えてもらえればと思う。</p>	<p>○災害復旧工事の入札件数が多く、技術者や下請の確保費用等、受注後の収益性を考慮して高止まりの応札額になったものと推察される。(140)</p> <p>◆受注件数が多すぎると減点したり、技術提案を求めないなど受注の偏りを是正することを考えながら取り組んでいるところ。今後も受注件数を見ながら考えていく必要がある。</p>
<p>◎「災害工事」なので応札があったことは良かったと思われるが、本工事は高額にも関わらず落札率が高いのはなぜか。入札回数が2回、応募者3者、入札参加者は1者となった経緯を知りたい。(145)</p>	<p>○多くの災害復旧工事入札案件があり、技術者や下請け業者の確保費用、土石流被災箇所の砂防工事のため降雨等の対応など、受注後の収益性を考慮して高止まりの応札額になったものと推察される。</p> <p>1回目の入札では予定価格を上回ったことから、2回目の入札により落札となった。</p> <p>○当時は多くの災害復旧工事入札案件があったことから、他の発注工事の入札に参加することで配置予定技術者が不足したため辞退をされたと推察される。(145)</p>
<p>○福岡県の請負額が高いため、県内の下請業者が福岡県に流れていくという話を聞いたことがある。</p> <p>人件費を上げて県内業者が受注したいと感じる方向に持っていくことが適正な競争原理を生むのではと思うが、どうか。</p>	<p>◆労務費関係で他県に下請が流れることは、県でも大変懸念しているところ。福岡県と比べて普通作業員の労務費が少し安価なところがある。</p> <p>労務費は国の労務費調査により決定するため、県としては労務費調査への適切な回答方法の説明会等を開催するなど労務費の差が縮まるよう取り組んでいる。</p>

資料番号 176 <杵藤土木事務所>

単河局改第 0639000-002 号 塩田川河川局部改築工事(護岸工)

資料番号 177 <杵藤土木事務所>

単河局改第 0639000-001 号 塩田川河川局部改築工事(護岸工)

<p>◎同じ工事で落札業者も同じでかつ落札</p>	<p>○河川内に設置した盛土による工事用道路を撤去する必要がある</p>
---------------------------	--------------------------------------

率も高いため、入札経緯を確認したい。
また、他社が辞退した理由も確認したい。(176、177)

◎入札参加者が同じ会社だと競争も働きにくく落札率が高止まりしてしまう。
入札参加しやすい工事だったのか。

◎参加しやすい工事でも4社程度にとどまるのは、他の工事への応札や人手不足、さらには採算性を考慮されたのことと思う。
抜本的な解決は難しいとは思いますが、できるだけ、競争を働かせるための何等かの仕組みづくや対策として考えられることがあれば教えてほしい。

ため、左岸と右岸に分割して発注した。2件とも入札参加資格要件は同じである。

①は、4社のうち2社が辞退、1社が予定価格超過のため、残りの1社が落札。

②は、4社のうち3社が辞退、①の落札業者が残ったため、2件とも同一業者となった。

落札率については、労務費や資材単価の高騰、また、下請費用を含めた実行予算を組んだ結果と思われる。

○辞退理由については、聞き取りの結果、他工事を落札したため技術者を配置できなくなったため。(176、177)

○工事の内容は、通常護岸の整備と嵩上げで一般的な工事内容。

○競争を働かせる意味では、発注見通しの早めの公表等が有効と思う。

資料番号 57 <河川砂防課>

広域河改第 5612000-001 号 松浦川広域河川改修工事(堰上部工)(令和5年度国補正)

◎高額工事であるが、入札参加者が2者しかいないのは残念である。なぜか、理由があるのか知りたい。
(57)

○本工事は河川改修により支障となる堰の改築をするものである。自動転倒堰の鋼製ゲートを製作し、設置する特殊な工事であり、一般的な土木工事と比較すると工事発注件数も少ない。このため、同種工事の施工実績やノウハウを有する会社や技術者も限られる。

○債務負担等を活用しており、余裕工期の設定も含め、適正工期を確保できていると考えている。

○引き続き、工事の発注にあたっては、関係法令や基準等に基づき適切に積算を行うとともに、適期の発注や余裕工期の設定など、競争性の確保につながるよう取り組んでいく。

(57)

資料番号 185 <教育総務課>

6大特工第1号大和特別支援学校歩車分離西側道路拡幅工事

◎入札参加者数が多いと、競争が働き、落札率も低くなることが多いと思われるが、185番の工事は、他の181~184までの工事と異なり、落札率が高い。185の工事で落札率が高いのは、

○入札参加者は4者で、うち、3者が設計金額に対し100%で応札していた。このため、技術評価点(企業の施工能力及び配置予定技術者の能力)の最も高い業者が落札者となった。

○応札者に聞き取りを行ったところ、路盤材などの資材価格が高騰傾向にあり、公告時点から工事着手時点までに資材価格が上

<p>どのような理由からか。(185)</p>	<p>昇する恐れを考慮し、見積もりを行っているようである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工事の内容は、学校敷地内における道路改良工事及び既設浄化槽の撤去工事である。校門から校舎までの主要な通路が工事対象であり、給食用食材搬入等の車両や生徒・保護者等の通行を確保しながらの工事となる。このため学校行事及び生徒や保護者への安全対策、これらに配慮した複雑な工程調整等が必要であること、さらに、既設浄化槽の撤去に対し不測の事態などを考慮して高止まりの応札額になったものと推察される。 ○181～184のトイレ改修工事・外壁屋上防水改修工事は生徒等が立ち入らないように区画された工事範囲で工事が行えるため、安全対策・工程調整等が比較的容易である。 ○より多くの業者が参加してくれるよう、今後も、適正な設計積算や工期設定を行うとともに他工事の発注状況を踏まえ工事発注に努めていく。(185)
<p>◎落札率が100%になるというのはあまり好ましくないと考えるが、今後、改善するためにどう考えているか。</p>	<p>○工事の範囲を考えるなど工夫の余地としてはあると考えている。学校内の工事では児童生徒の活動時間の制約もあり、校舎や校内の工事になると工期が限られており、夏休みの期間中に工事を完了する必要がある。また、特別支援学校では安全配慮する必要があり、難しい面がある。その施工環境の中で工事範囲や工期の工夫を検討したい。</p>
<p>資料番号 197 <警察本部会計課> 6交第12号交通信号機車両灯器等更新工事</p>	
<p>◎警察本部会計課の電気工事13件の落札率は全て92%であり、同じ業者が複数落札しているケースもある。代表でNo.197について入札経緯を確認したい。(197)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本工事は佐賀北警察署管内にある14交差点の車両灯器及び歩行者灯器をLED仕様の灯器に更新する工事である。 ○入札参加申請者数7者のうち、3者は入札を辞退しており、1者は同日に開札が行われた他の工事を落札して資格喪失となったことから、最終入札参加者は3者となった。 ○年度当初の発注であったため、入札参加申請者数は多いものの、同時期に本工事と類似の工事を12件公告しており、既に他の工事を落札した業者が技術者不足のために、入札を辞退したものと考えられる。 ○全ての入札参加者が最低制限価格で入札しており、その中でくじ引きを行い、落札者を決定した。 ○工事の積算に係る機器費、材料費、労務費等の単価及び歩掛については、「交通信号機工事単価表」として業者に公表しており、諸経費率についても公告時に公表しているほか、入札後、金入りの設計内訳書を県警のホームページで公表している。 ○建設工事の最低制限価格の設定基準値は、県のホームページで公表されていることから、本工事のように、複数業者による同価格の入札、くじ引きにより落札者が決定している。 ○電気工事13件全てにおいて、請負金額が4,000万円を超えており、主任技術者を専任で配置する必要があり、主任技術者を多く雇用する業者ほど多数の工事を受注することが可能であるこ

	<p>とから、入札参加工事全てに最低制限価格で札を入れ、くじ引きにより複数落札している業者も見られる。</p> <p>○例年、信号機工事は最低制限価格での入札、くじ引きで落札者が決定するケースが多いが、各落札業者は適切に工事を履行している。今後も受注者確保のため、早期発注等に努めていきたい。(197)</p>
<p>◎同様の工事が同時に13件発注されているので、辞退された業者も他の契約を落札したものと見受けられる。灯器の更新は、今まであまりなかったのか。</p> <p>◎LEDに替えると耐久性が上がるので、今後の信号の工事関係は頻度がそんなに増えないのか。</p> <p>◎128頁の入札の内容を見ると応札価格が全て92%。他の12件についても同じ。入札価格の妥当性については審査対象ではないかもしれないが、予定価格が高すぎることはないのか。沢山の入札希望者がいる中で92%、競争原理が働いているようだが、逆に言えばもっと予定価格を下げても応札してくれるのではないのか。</p>	<p>○信号灯器の電球式からLED式への更新については、令和十年ぐらいには在庫としての信号用の電球が消えてしまうため、2カ年計画で更新計画を予定している。今年が一年目になり、大量に発注したこともあり、大規模な工事になっている。全国的にLEDの信号灯器の不足が想定されるので、早期発注により、県内の信号工事の資格を持った業者がほとんど受注できるように配慮しながら開札を行った。なお、本工事については2年間の計画でLED工事は全部終わらせる予定。</p> <p>○今回電球式をLEDに替えた部分については十年以上持つが20年ぐらい前からLED式の信号灯器を整備しており、その初期に交換していた第一世代と呼ばれLED式を順繰りに更新整備していく。電力消費量は六分の1以下。</p> <p>○信号工事の単価につきまして、毎年、県の労務単価を採用しておりまして、他の機器とか材料費につきましても物価資料や業者から複数の見積りを徴してその平均値を出すなど、定期的に単価の見直しを行っている。また、信号機工事に関する基準書を適用した諸経費率を採用して計画を立て、適正な予定価格を策定している。</p>